

チェックリストによる河川事業の再評価項目（その１）

河川名	前川	事業名	総合流域防災事業	事業区間	藍住町徳命～藍住町奥野	
再評価の実施理由		再評価実施後５年が経過しており、事業の必要性・効率性を再度評価する必要がある。				
未着工或いは事業が長期間要している理由			事業には着手しているが、一連区間を改修する事業計画規模であり、長期の事業期間を必要とするため。			
事業内容	事業目的	河積の拡大、河道線形の是正等により浸水被害の軽減を図る。				
	事業実施内容	全体計画延長L=1,250m 掘削 40,800m ³ 、護岸 2,517m、道路橋8橋				
	目標流量	20 m ³ /s	治水安全度（当該事業目標）		1/10	
事業の進捗状況	事業採択年	S56	工事着手年	S57	完成目標年	H26
	全体事業費 （内用地費）	26.0 億円 12.6 億円	投資事業費 （内用地費）	25.5 億円（進捗率 98 %） 12.5 億円（進捗率 99 %）		
	事業進捗状況	全体改修延長1,250mのうち、約1,220mが完了している。				
	一連の整備効果の発現状況	改修済区間では浸水被害が軽減され、宅地化が進んでいる。				
事業を巡る社会情勢等の変化	事業目的に関する諸状況	現状での課題	未改修区間の現況河道断面の河積が小さく、大雨時には現在でも溢水氾濫しており、早期に改修する必要がある。			
		災害発生時の影響（想定氾濫区域内）		（事業着手時点）		
		①浸水戸数：207戸 ②浸水面積：47ha ③重要な公共施設等：道路（県道徳島引田線等）、警察署交番 ④災害弱者関連施設等：徳命老人憩の家、近藤外科内科				
		過去の災害実績		（S38～H22の水害統計、H16浸水痕跡マップ）		
		①被災頻度：S40, S45, S46, S47, S49, S50, S51, H2, H13, H16 ②最大浸水戸数：床上29戸、床下355戸（昭和51年台風17号と豪雨） ③最大浸水面積：320ha（昭和51年台風17号と豪雨）				
		災害発生の危険度				
		①改修目標流量に対する現況流下能力の割合：ブロック①33% ②現況の治水安全度：ブロック①1/1程度				

チェックリストによる河川事業の再評価項目（その2）

河 川 名		前 川	事 業 名	総合流域防災事業	事業区間	藍住町徳命～藍住町奥野
続 き	地 域 の 状 況	①地域開発の状況 藍住町では、近年徳島環状線を中心に大型店舗が進展しており、今後も開発が進むと予想される。				
		②地域の協力体制 用地買収については概ね完了している。				
費 用 対 効 果 分 析		③関連事業との整合性の変化 徳島環状線（道路整備は完了している）				
		④地域の事業に対する社会的評価 改修の効果が高く、事業完了に向け地元の要望が強い。				
		費用： 総費用の算定は、以下に示すとおりである。				
		・ 総事業費 全体事業費のうち執行済事業費は治水デフレーターで、残事業は将来の割引率(4%)を考慮して現在価値化したうえ積算した。 建設費 = 6,045 百万円				
		・ 維持管理費 1年間当たりの維持管理費について、施設完成までと施設完成後（50年間）を対象に将来の割引率(4%)を考慮して現在価値化したうえ積算した。 維持管理費 = 293 百万円				
		・ 総費用 総事業費＋維持管理費で算出した。 総費用 = 6,045 + 293 = 6,338 百万円				
		効果： 総便益の算定は、以下に示すとおりである。				
		・ 純便益 事業中の便益として、年平均被害軽減期待額（502百万円）を、事業完成までの2年間（平成25年～平成26年）にわたり現在価値化して積算した。さらに事業後の便益として、年平均被害軽減期待額（704百万円）を、事業完成後50年間（平成27年～平成76年）にわたり現在価値化して積算した。 純便益 = 15,527 百万円				
		・ 残存価値 評価対象期間終了時点における構造物と用地の残存価値を現在価値化して積算した。 残存価値 = 44 百万円				
		・ 総便益 純便益＋残存価値で算出した。 総便益 = 15,527 + 44 = 15,571 百万円				
費用対効果分析の結果 費用便益比 B／C = 15,571／6,338 = 2.46（全体事業）						